

第 2 回 ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン懇談会 議事概要

1 開催日時	平成 30 年 8 月 6 日（月）14 時 30 分から 15 時 55 分
2 開催場所	福井県自治会館 202・203 研修室
3 議 題	（１）ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン（素案）の一部修正について （２）「活力と魅力あふれる ふくい嶺北都市圏」の更なる発展に向けて
4 出席者	ビジョン懇談会委員 13 名（2 名欠席） 各市町政策担当職員 10 名 各ワーキンググループ職員 20 名 事務局 9 名
5 傍聴者数	4 人
6 意見等 （抜粋要約）	（１）ふくい嶺北連携中枢都市圏ビジョン（素案）の一部修正について ・ 前回の懇談会で出された委員の意見が反映されている。その後のワーキング等の開催により、色々な意見が出され、協議されているので、事務局の修正案でよい。 （２）「活力と魅力あふれる ふくい嶺北都市圏」の更なる発展に向けて 【発言順】 ・ 将来的に国は、人口 50 万人を割る自治体を集め、1 つの圏域とする方向で動いている。人口減少社会を支える若い世代、特に 20 代から 30 代に情報を提供し、若者の意見または方向性を定める道標にしていけるといい。 ・ 民間企業では決して取り組めない公権力が必要な事業、例えば、市道等を完全 2 車線化（右折レーン整備）するためには、道路の拡幅やセッバックを行う必要があり、それらは民間企業では出来ない。そのような取組を連携市町で議論できるといい。 ・ 北陸 3 県では、福井が一番知名度が低い、福井は関西圏や中京圏に近く地理的優位性がある。その強みを活かして、産業や観光などのあらゆる面で連携しながら取組を進めていけるといい。 ・ 若者が進学や就職で福井を出た場合であっても、男性の U ターン率は高いが、女性は働く場所がないため U ターン率が低い。女性特有の仕事を創出し、女性が U ターンしやすい環境ができるといい。 ・ 福井には、文化財などいいものが沢山あるが知らない人が多く、また知名度も低い。福井県民はアピールが下手と言われるが、連携によって上手にアピールし、知名度を上げていけるといい。 ・ 県外へ出向宣伝に行く際に、費用対効果を鑑みながらどのような手法で行うと効果的なのか、連携市町で議論できるといい。 ・ 福井は二次交通が弱い。タクシーを利用しないと行けない観光地もあることから、圏域を跨いでシャトルバスを走らせるなど、今後の課題と

	して連携市町で取り組めるといい。 ・協約に基づいた取組を進める中で、時間の流れとともに、事業の継続・拡大・縮小などが予想されることから、ビジョン懇談会の場で、事業のチェック機能を強化できるといい。 ・未来を語る会議に、若者がいないのはいかなものか。現在は、30代の若者が観光の話をして誰も聞いてもらえない環境にある。若者が未来を語り合える環境があるといい。 ・福井は住みやすいというが、東京の方が断然住みやすい。連携によって、首都圏から移住、定住を促進するためには、ターゲットを明確にし、戦略を練って取り組んでいけるといい。 ・嶺北の市町が一体となって、修学旅行の誘致に取り組むべき。特に中学校をメインターゲットにすることによって、大人になってからリピーターになる可能性や、将来的には移住、定住に繋がることも考えられる。圏域だけでなく、県や民間も巻き込んで取り組めるといい。 ・プライオリティーを考慮して取り組む必要はあるが、55事業の中で関係市町が参加していない事業もある。将来的には全市町で事業に取り組んでいけるといい。 ・圏域には、おいしい水や空気など豊かな自然や農林水産物、伝統工芸品などがある。連携により、こうした圏域独特の環境等を活かした事業に取り組めるといい。 ・海、山、田畑などの自然環境が守られていることが、福井の住みやすさに繋がっている。こうした自然環境を活かして人口増に繋がる取組が出来るといい。 ・嶺北全体が一体となって物事を考えることに意義がある。産業や福祉など、分野毎に分科会をつくって、色々議論を深めながら事業に取り組んでいけるといい。 ・人口減少社会の中で、人材不足が顕著になっている。労働力の確保を外国人に求めるようになってきており、多文化共生社会を進める必要性が連携都市圏でも必ず出てくる。こうした流れに対応するための環境の受け皿を整備出来るといい。 ・圏域には、豊かな自然や食、文化や芸術がある。様々なファクターを結び付ける、例えば、観光に文化的な要素を取り入れて考えていくことによって、圏域全体のイメージアップに繋がっていけるといい。 ・今後、委員と市町の方々が、お互いの考えを話し合える分科会を設置して、お互いにネットワークを広げる機会ができるといい。 以上
--	---